

名前（ ） 日づけ（ / ） できた数（ /28）

使い方 本文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。この話の山は「うつくし・あやし・ある」など現代語とずれる古語、「なむ…ける」の係り結び、完了の「ぬ」と使役の「す・さす」、そして翁の会話文の中の敬語（おはす・給ふ）です。

あらすじ＝昔、竹を取って暮らす竹取の翁がいた。ある日、根もとの光る竹を一本見つけて近寄ると、筒の中が光っていて、三寸ほどのたいそうかわいらしい子が座っていた。翁は「毎朝毎晩見る竹の中にいらっしゃるのだから、自分の子になるはずの人であるようだ」と言ってその子を家へ連れ帰り、妻の嫗に預けて育てさせる。子はぐんぐん成長し、大きくなったので、翁はみむろとのいむべの秋田を呼んで名をつけさせ、秋田は「なよ竹のかぐや姫」と名づけた。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

今は昔、竹取の翁（おきな）と^①いふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、^②よろづのことに^③使ひけり。名をば、さぬきのみやつこ^④となむいひける。その竹の中に、もと光る竹なむ一筋（ひとすぢ）ありける。^⑤あやしがりて、寄りて見るに、^⑥筒の中光りたり。それを見れば、^⑦三寸（さんずん）ばかりなる人、^⑧いとうつくしうてゐたり。

翁言ふやう、「我朝ごと夕ごとに見る竹の中に^⑨おはするにて、知りぬ。子になり^⑩給ふべき人^⑪なめり。」とて、手にうち入れて、^⑫家へ持ちて来（き）ぬ。妻（め）の嫗（おうな）にあづけて^⑬養はす。

この子、養ふほどに、すすくと大きになりまざる。…この子いと大きに^⑭なりぬれば、名を、みむろとのいむべの^⑮秋田を呼びつけてさす。秋田、なよ竹のかぐや姫とつけつ。

語注 今は昔＝今となつては昔のことだが。物語の書き出しの決まり文句。まじる＝分け入る。入りこむ。よろづ＝いろいろ。さまざま。すべて。名をば＝名を。「を」に「は」が付いてにづつた形。さぬきのみやつこ＝竹取の翁の名。もと＝根もと。一筋＝一本。あやしがる＝不思議に思ふ。筒＝竹のふしとふしの間の、うつろになつたところ。三寸＝一寸は約三センチ。三寸は約九センチほど。うつくし＝かわいらしい。いとしい。うつくしうて＝「うつくし」のウ音便。ある＝座る。じつとしてゐる。言ふやう＝言つことには。朝ごと夕ごと＝毎朝毎晩。おはす＝「あり・をり」の尊敬語。いらっしゃる。なめり＝「なるめり」が変化した形。ゝであるようだ。うち入る＝（手の中に）入れる。「うち」は語調を整える接頭語。嫗＝おばあさん。ここでは翁の妻。養はす＝養わせる。「す」は使役の助動詞。すすくと＝ぐんぐんと。ずんずんと。大きになりまざる＝ますます大きくなる。みむろとのいむべの秋田＝人名。この子に名をつけた人。なよ竹＝細くしなやかな竹。※本文の「…」は、教科書などで一部が省かれていることを示します。

A 語句の意味と読み(1～8)

- (1) ①「いふ」を現代仮名遣いのひらがなに直して書け。
- (2) ②「よろづ」の意味を書け。
- (3) ③「使ひけり」を現代仮名遣いのひらがなに直して書け。
- (4) ④「あやしがりて」の意味を書け。
- (5) ⑤「三寸(さんずん)ばかり」の「ばかり」の意味を書け。
- (6) ⑥「いとうつくしうてゐたり」の「うつくし」の、古語としての意味を書け。
- (7) ⑦「いとうつくしうてゐたり」の「ある」の意味を書け。また「ゐたり」を現代仮名遣いのひらがなに直せ。
- (8) ⑧「いとうつくしうてゐたり」の「うつくしう」は、もとの形が変化したものである。もとの形と、その変化の名を書け。

B 文法(9～14)

(9) ④「となむいひける」に使われている係助詞と、その結びの語・活用形を書け。また、これと同じ係り結びが本文中にもう一か所ある。その一文をそのまま抜き出せ。

(10) ⑥「筒の中光りたり」の「たり」の文法的意味を書け。

(11) ⑪「なめり」を文法的に説明せよ。

(12) ⑫「家へ持ちて来(き)ぬ」の「ぬ」の文法的意味と活用形を書け。

(13) ⑭「なりぬれば」を文法的に説明せよ。「ぬれ」の意味と活用形、「ば」の意味を必ず入れること。

(14) ⑬「養はす」と⑮「秋田を呼びてつけさす」の「す」「さす」は、同じ働きの助動詞である。何を表す助動詞か、それぞれの意味とあわせて書け。

おひたち

C 主語・指す内容・敬意の方向 (15～17)

(15) ⑨ 「おはする」の敬語の種類を答え、誰から誰への敬意を書け。

(16) ⑩ 「給ふ」の敬語の種類を答え、誰から誰への敬意を書け。

(17) ⑫ 「家へ持ちて来(き)ぬ」の主語は誰か。

D 口語訳 (18～21)

(18) ④ をふくむ「名をば、さぬきのみやつことなむいひける」を口語訳せよ。

(19) ⑧ 「いとうつくしうてゐたり」を口語訳せよ。

(20) ⑩・⑪ をふくむ「子になり給ふべき人なめり」を口語訳せよ。

(21) ⑭ をふくむ「この子いと大きになりぬれば」を口語訳せよ。

E 内容・記述 (22～25)

(22) ⑤ 「あやしがりて」とあるが、翁は何を不思議に思ったのか。本文に即して書け。

(23) ⑥ 「筒の中光りたり」とあるが、光っていたのは何であつたか。すぐあとの一文をふまえて書け。

(24) ⑩ 「給ふ」をふくむ「子になり給ふべき人なめり」と翁が考えたのはなぜか。本文に即して書け。

(25) ⑮ 「秋田を呼びてつけさす」とあるが、この子が「なよ竹のかぐや姫」と名づけられるまでの経緯を、名づけた人物をふくめて書け。また「なよ竹」の意味も書け。

F 文学史 (本文全体をふまえて答える) (26～28)

(26) この文章の出典『竹取物語』について、成立したおよその時代・作者・物語としての位置づけを書け。

(27) 『源氏物語』の中で『竹取物語』は「物語の出で来はじめの祖（おや）」と呼ばれている。この言葉の意味を書け。

(28) 『竹取物語』で、成長したかぐや姫はこのあとどうなるか。物語の大きな流れを簡単に書け。

【テスト直前チェック】この三つ ①「うつくし」は「かわいらしい」。⑧を現代語の「美しい（きれい）」で訳すと即アウト。⑤「あやしがる＝不思議に思う」、②「よろづ＝いろいろ」も現代語とずれる語なのでセットで覚える。②係り結びは「なむ…ける」が二か所。④「となむいひける」と「もと光る竹なむ一筋ありける」。ぞ・なむ・や・か→連体形、こそ→已然形。結びの語と活用形をセットで答えられるようにしておく。③「ぬ」は完了か打消か。⑫「持ちて来（き）ぬ」は連用形に付くので完了。⑭「なりぬれば」は已然形＋「ば」で「～ので」。未然形に付いていれば打消「ず」の連体形。